

問 地域公共交通の充実を求める



答 実行段階を目指し、取り組む

公明党 岡崎 悟 議員

問 多くの方から、地域公共交通の充実を求める声を聞いている。全ての世代が、年齢に関係なく、自動車免許を返納した後も自由に交流ができ、笑顔と対話にあふれた地域社会の構築と環境整備としての公共交通の充実が求められる。村長の考えは。

答 地域公共交通の充実には、多くの方から意見をもらっている。現在、担当課に検討させているところである。車を運転できない方や高齢者、学生等の足の確保が必要であり、地域の活力を維持強化する公共交通は必要である。本村では、デマンドタクシーと路線バスへの支援を行っている。移動手段確保による更なる公共交通の充実が急務であり、大事である。現在、全国の

情報をできるだけ早く集めて、本村にあった公共交通サービスの提供ができるようにしたい。公約に掲げた、「共生型の地域社会づくり」の一環として、強気に推進したい。検討ばかりでは進まないで、できるだけ実行段階へと入れるよう全力で取り組んでいく。



公共交通の充実が求められる

問 生産意欲を高める農業支援とは



答 村独自の推進策を創設する

光風会 恵利 いつ 議員

問 消費者の農産物に対する安全・安心志向が高まる一方で、農業従事者の高齢化、担い手不足がある。課題解決のためにも、需要(消費者ニーズ)に応じた農産物を提供できる農家を育成する政策が必要。

答 安全な農産物生産「GAP」、衛生的な管理「HACCP」が注目され、村内でも干しいも生産者を中心に導入の機運は高まっている。

問 村の転作奨励補助金は、生産意欲が湧く仕組みになっているのか。

答 一定の成果が得られた政策ではあるが、生産努力が低下してしまふという指摘もある。意欲をもって営農に取り組んでもらえる助成制度としていく。

問 「いじのなか」に

おける出荷手続等の支援が必要。JAとの連携を密にすべき。

答 JAや出荷部会との意見交換の場に今後は積極的に参加し、出荷者の声の把握と課題解決に努める。

問 交流館建設は本当に必要か

答 必要と考える

問 交流館建設に反対、疑問の声が未だに多いが。

答 理解が得られるように説明を続ける。



街頭アンケート8割がノー

一般質問